

1. 件名 楽曲「君の住む街」をいただきました
2. 内容 本年1月22日の八千代市制施行50周年記念式典で披露された楽曲「君の住む街」の著作権を無償譲渡いただきました。 本年は、八千代市制施行50周年を迎えた年であり、様々な記念事業を展開する予定となっております。当楽曲は、補助金を活用した市民企画提案事業をはじめ、50周年にちなんだ様々な事業に活用していただければと考えています。 また、市の事業だけでなく市民の皆様の演奏活動やBGMで使用いただくことにより50周年を盛り上げていくほか、教育現場での使用・あっせんを行うことで、広く活用していきたいと考えています。楽曲の音源や楽譜は、市民の皆様が自由に使えるよう市ホームページに掲載するなど、広く周知を図っていきます。
3. 過去・現在及び今後の展開 <ul style="list-style-type: none">・平成28年5月27日、楽曲「ハイ・タッチ～やっちのテーマ～」の受贈。・平成29年1月22日、八千代市制施行50周年記念式典において、「ハイ・タッチ～やっちのテーマ～」及び「君の住む街」を披露いただく。・平成29年6月5日、「君の住む街」の無償での著作権譲渡契約を締結。 【楽曲の紹介】 <p>昨年寄贈いただいた「ハイ・タッチ～やっちのテーマ～」に携わった本市に縁のある音楽家の方々に制作いただき、歌唱には、女声合唱アレンジとして、八千代少年少女合唱団の皆様も参加されています。</p> 題名：君の住む街 歌唱：m@ya, 大西あゆみ (Pops アレンジ) 八千代少年少女合唱団 (女声合唱アレンジ) 作詞：m@ya, 石井裕介 作曲/編曲：石井裕介 合唱アレンジ：石井裕介 合唱指導：長岡利香子 レコーディングエンジニア：伊藤輝昭【音家-otoya-】
4. 添付資料 「君の住む街」制作者提出資料
5. 問い合わせ先 電話：047-483-1151(内線 2331～2333) 担当課：八千代市総務企画部 総合企画課 企画政策班



君の住む街
君の住む街
君の住む街
君の住む街

君の住む街

いつも同じ帰り道 今日少し遠回り 知らなかった こんなにも 綺麗な夕焼け
茜空に手をかざし ふいに胸が ぎゅっと詰まる 僕のいない時代を生きた 誰かを感じて

遠ざかってゆく思い出はどこへゆくのか
この川のように流れて 大きな海に 辿り着く頃 答えを知るのだろう

遠い未来に住む 君に僕は会えない

だけど同じ空を きっと好きになるよ

通り雨ならすぐ止むさ わかっている不安になる

まだ誰にも言えないこの夢を いつか打ち明けたい

足りないものだけ数えるのは 悪い癖だな この街で過ごす日々のが 僕を叱ってる

「君が笑えば この雲も晴れるだろう」

遠い未来に住む 君に僕は会えない

だけどそばにいるよ 僕もここで生きた

空は青く澄んで 風が心地いいね

そっと目を閉じれば 僕ら繋がれるよ

遠い未来に住む 君に僕は会えない

時の流れる先 いつか海で会おう La La La....

歌唱：m@ya、大西あゆみ（Popsアレンジ）
八千代少年少女合唱団（混声合唱）

作詞： m@ya、石井裕介

作曲/編曲： 石井裕介

合唱アレンジ：石井裕介

合唱指導：長岡利香子

レコーディングエンジニア：伊藤輝昭（音家-otoya-）



m@ya (マヤ)

制作チームの紹介

歌唱と作詞を担当。シンガーソングライター。昨年5月27日に発表された「ハイ・タッチ～やっちのテーマ～」においても歌唱と作詞を担当した経緯から当楽曲の制作に参加。

1月22日の市制施行50周年記念式典では、八千代市市民会館大ホールで八千代少年少女合唱団、きらきら八千代ジュニアダンスと共に当楽曲を披露した。

大西あゆみ

Popsアレンジにおいて全コーラスパートを担当。大阪音楽大学音楽部声楽科卒のソプラノ歌手。昨年5月27日に発表された「ハイ・タッチ～やっちのテーマ～」寄贈の際に、アドバイザー、ジャケットデザインなどを担当し、八千代市との架け橋も行った。「やっちフレンドクラブ」の会長を務めグッズ制作や、やっちのグッズ制作、やっちに因んだイベントを主催し、やっちの知名度アップにも貢献。後述の石井とのデュオ「あ。ゆ。う。」でも歌唱を担当し、市内のパーティーやイベントで演奏活動に取り組んでいる。

八千代少年少女合唱団

混声合唱バージョンの歌唱を担当。昭和52年12月現在も指揮者を務める長岡利香子氏により創設された。平成28年に「花とライオン児童合唱音楽賞」。これまでも平成6年に「歌う若人国際合唱コンクール」にて世界第三位、平成12年に「カンテムス国際合唱コンクール」にて金賞を受賞する等、「歌う若人国際合唱コンクール」にて世界第三位を受賞する他、海外での活躍もめざましい市内屈指の合唱団。1月22日の市制施行50周年記念式典では、これらの功績が評価され、八千代市民栄誉賞を受賞した。

伊藤輝昭

レコーディングエンジニアとして録音を担当。昨年5月27日に発表された「ハイ・タッチ～やっちのテーマ～」においてもマスタリングエンジニアを担当。当楽曲では、合唱録音に関わる技術的な工程を全て担当。普段はPA会社「音家-otoya-」の代表を務め、舞台、コンサートなど様々な音響の現場に携わっている。

石井裕介

作詞の一部と作曲、編曲を担当。株式会社ころざし音楽工房所属の作曲家。昨年5月27日に発表された「ハイ・タッチ～やっちのテーマ～」においても中心となり作詞、作曲、編曲を担当。本楽曲においても、中心となり楽曲の制作にあたった。国内様々なアーティストへ楽曲提供し、松平健氏やDearDreamなどのレコーディングにギタリストとして参加する一方で「音楽での地域貢献を目指す」活動に注力し、県内外様々な地域へ音楽を提供、コンサートやイベントでの演奏にも取り組む。

以前、ハイ・タッチ～やっちのテーマ～という楽曲を制作したとき、最後まで迷った曲がありました。

それがこの曲のメロディでした。最終的に採用しなかった理由は単純で、このメロディのどこにも「やっち」という言葉が当てはまらなかったから。

市の総合企画課様より制作の要望を受けたとき、故郷の50年という節目に未来へ宛てた手紙のような音楽をつくりたいと思いました。

先代市民が作ってきた土台に現市民が彩りを添えてきたことで、街は発展し続けて、この街は50年目を迎えました。

2017年の今は色々な職業の人がそれぞれの仕事と真剣に向き合ってきた結果、地域を元気にしている素晴らしい時代です。

この志を、想いや希望を”音楽”という手紙に込めて遠い未来に住む人たちへ伝えたい。

その未来の八千代市がどんな街なのかは解らないけど、君が生まれたこの街を好きでいて欲しい。そんな想いを込めました。

2017年1月22日に行われた市制施行50周年記念式典では、

この楽曲のイメージを最大限に再現するべく、次の世代を作っていく若者達のパフォーマンスによって記念ステージの最後、コンサートの最後に披露させて頂きました。

歌詞は“僕”を現代の住人、“君”を未来の住人、“風景”を先人が築いてきたものと喩えて構成しており、作中の”川”は市と共に歩んできた「新川」を指します。

音楽も時代と共に多様化し、専門的な言葉を用いるなら踊るメロディ、複雑なコード進行、突拍子もない転調、想定外の変拍子でアトラクション要素が強い楽曲もヒットチャートの中でも外でも散見されます。

この楽曲はあえて完全に真逆です。単純なメロディ、単純なコード進行、変拍子も転調もない。ギターやピアノを弾き始めた初心者でもすぐに弾けるような、呆れるほど簡単な構成になっています。

それは、多くの人に慣れ親しんでもらいすぐに覚えて頂けるようなシンプルな楽曲にしたかったからです。

自分は決して正解を語れるほどの身分ではないのですが、一貫して持ち続けている信念として作曲家の使命は

「高度な技巧を用いる芸術的な楽曲を作ること」ではなく「歌い継がれる価値のある楽曲を残す」ことだと思っています。

音楽は音楽専門家だけのものではない、この楽曲は特別な知識は必要とせず市民全員が共有出来るものです。

この楽曲を様々なシーンで使って頂けることを願ってイベントやBGMとしての用途ならPopsアレンジ、合唱や教育現場での用途なら混声合唱アレンジの2種類の音源を制作しました。

遠い未来のこの街も、この曲がどこかで聴こえてくるような平和で元気な街であることに希望を込めて